

国営かんがい排水事業「伊是名地区」

着工までの経緯

本地区のある伊是名島は、農民であつた琉球王朝第二尚氏の始祖・尚円王ゆかりの地として優遇され、宮古や八重山のような厳しい年貢の取り立てや圧政を受けなかつたといわれています。そのため、古く琉球王国時代から米どころとして知られ、台風や水不足による大飢饉に見舞われながらも一貫して稲作中心の農業を続けていました。

しかし、昭和37年、キューバ危機で砂糖の需要が急上昇したことや、昭和40年代に本格化した米の生産調整により、島の水田はさとうきび畑へ変わっていきました。



現在もわずかに残る水田。
かつては島の農地の大半が水田であった。



ため池は、貴重な水源。
ポンプで水を汲み上げ、ホースを引く。
ホースは長いところで1~2kmにも及ぶ。



かつての水田をはるかにしのぐほど広がったさとうきび畑の水不足が大きな課題となり、水田ではなく畑に水を送る新たなシステムも不可欠となりました。

さらに、離島という条件から、畑作に必要な用水は雨水に頼る不安定なものであり、保水力の低い土壌条件と相まって恒常に干ばつ被害も受けしていました。

平成11年度から、加速的に高まる水不足の課題に対応するため、国営かんがい排水事業「伊是名地区」が着工され、新たな水源として地下ダムが建設されました。



朝日に輝く
さとうきび畑。
伊是名のさ
とうきびは
糖度が高く、
品質が良い
といわれて
いる。

国営かんがい排水事業「伊是名地区」

事業内容①

本事業では、伊是名村の畠地520haを対象に、水源施設として地下貯水部、地表貯水部(千原貯水池)並びに2カ所の副貯水池から構成される千原地下ダム、大野山内貯水池、基幹的な用水路を新設しました。また、関連事業によりため池や支線用水路などを整備し、伊是名村全体の農業用水の不足を解消し、農業生産の安定と農業経営の発展に貢献することを目指しています。

工期

平成11年度着工～平成20年度完了

受益地					
受益面積 (ha)	水田 (ha)	普通畑 (ha)	牧草畠 (ha)	果樹園 (ha)	計 (ha)
—	440	40	40	40	520
市町村名	伊是名村				



水源

本地区は、関連ため池(24カ所)を補給水源として利用し、不足する水量について新規に国営施設(千原地下ダム、大野山内貯水池)の開発を行い、水源として活用しています。

項目 貯水池名	流域面積 (km ³)	総貯水量 (千m ³)	有効貯水量 (千m ³)	備考
千原地下ダム	2.4	790	790	新設 千原第1副貯水池、千原第2副貯水池、及び 第1送水路(延長=2km)、第2送水路(延長 =1km)を含む。
大野山内貯水池	0.1	40	40	新設

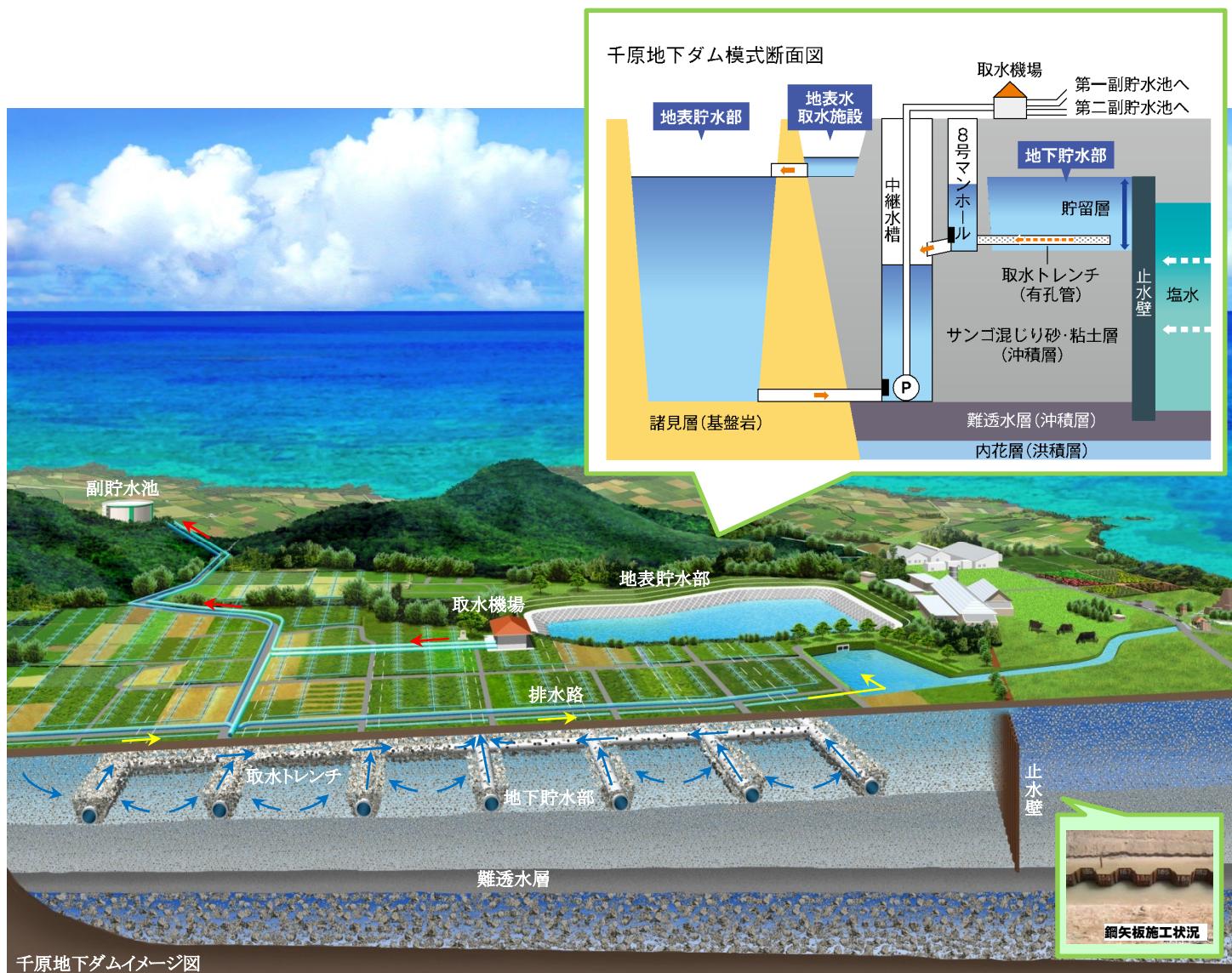
国営かんがい排水事業「伊是名地区」

事業内容②

配水方法

ほ場までの配水は、次のように行われます。

- ①地下貯水部は、地下浸透した水を止水壁でせき止めて、地中に貯留し、貯水区域内に埋設された取水トレーニチから取水します。
- ②地表貯水部は、千原東・西排水路の地表水を取水し、堀込み式の貯水池(千原貯水池)に貯留します。
- ③地下及び地表貯水部の貯留水は、中継水槽で合流し、取水ポンプで2ヵ所の副貯水池(水をいったん貯めるタンク)に揚水した後、下流のため池やほ場に配水されます。
- ④ほ場に届いた用水は、かん水チューブ等により作物にかんがいされます。

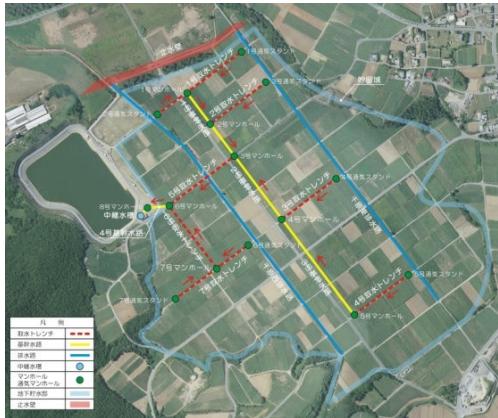


国営かんがい排水事業「伊是名地区」

事業内容③

主な施設

千原地下ダム



地下貯水部



地表貯水部(千原貯水池)



千原第1副貯水池



千原第2副貯水池

千原地下ダム	有効貯水量790千m ³ ※以下の()書き有効貯水量は790千m ³ の内数である。
地下貯水部	有効貯水量(240千m ³)、高さ(15.5m) 鋼矢板工法
地表貯水部	有効貯水量(513千m ³)、高さ(15.0m)
第1副貯水池	有効貯水量(25千m ³)、受益面積(215ha)
第2副貯水池	有効貯水量(12千m ³)、受益面積(307ha)
送水路	第1送水路管路長2.2km、第2送水路管路長1.7km
取水機場	水中モーターポンプΦ150mm×4台

貯水池



用水路名	有効貯水量
大野山内貯水池	40千m ³

用水路



カンゾウ調整池

用水路名	延長
カンゾウ用水路(カンゾウ調整池含む)	2.7km
大野山内用水路	1.5km

水管理施設



中央管理所

地下ダムや各貯水池などの貯水量や取水量遠方監視・操作し、集中管理します。



各施設の位置図
※黄色の部分は地下ダムの
水が行き渡る範囲 (受益地)

国営かんがい排水事業「伊是名地区」

事業の効果

■水あり農業に向けて

さとうきび生産の安定化と単収アップ



千原低平地に広がるさとうきび畑

さとうきびの生産は、天候に左右され、かんばつ時には収量が落ち込んでいました。

しかし、かんがい施設の整備により、安定的な生産及び単収の増が見込まれます。



玉ねぎの間作

現在、さとうきび畑において、ジャガイモ、玉ねぎ、カボチャなどの間作が進められており、間作によりさとうきび畑の生産収益の向上に取り組んでいます。

様々な作物生産の導入・拡大への期待



かんがい用水の安定供給が可能になったことから、基幹作物であるさとうきび以外の野菜、果樹及びハウス栽培などの導入が期待されます。

また、これまでかん水作業に要した時間・負担が軽減されることから、経営規模の拡大などが見込まれます。

農家の声



宮城さんへのインタビュー

さとうきび農家の宮城さんの声

これから伊是名の営農体系が大分変わってくると思います。私もキビ一辺倒から、野菜、果樹等をどんどん増やしたいと思っており、現在、さとうきび畑でカボチャの間作なども行っています。間作は去年頃から若い者が着目して、カボチャ、たまねぎ、ジャガイモ、おくらなどを手掛けております。

島の若い人たちの職が段々無くなっている昨今で、公共工事だけに依存していた、若い人たちが農業に目を向けて、島で儲かるような農業を目指して頑張っているのは、水あり農業のおかげです。今後、島が活気づいてくれればと思っております。



マンゴー収穫の様子

マンゴー農家の末吉さんの声

やっぱりマンゴーに一番必要なのは水です。

最初は水に苦労しました。今まででは、近くのため池からタンクに水を汲み、畑まで運搬し、それをまたタンクに入れ替えてポンプアップしてマンゴーに散水していました。

これから地下ダムの水が畑まで来ることで、今まで手間暇をかけた作業もなくなるし、いつでも水が使えるので、本当に感謝しています。

地域の取り組み



農産物直売所「ねーがゆ」

J A 伊是名支店の島農産物直売所「ねーがゆ」。

地産地消を図り、島の農業の活性化に向けて取り組んでいます。



J A 女性部の活動

J A 伊是名支店の女性部では、島で獲れた野菜などを利用した、新たなメニューの試作などの料理講習会を実施して、地産地消、特産物作りに取り組んでいます。